本号の概要

本号は、2008 年９月７日（日）に名古屋大学で行われたシンポジウム「鯨岡理論の現在」での登壇者による講演および話題提供、それらをふまえたディスカッションの記録を、登壇者のチェックを経た上で掲載するものである。

「鯨岡理論の現在」

日時：2008 年９月７日（日曜）　12：00〜18：00
場所：名古屋大学　ベンチャービジネスラボラトリー・ベンチャーホール

登壇者：
講演
　鯨岡　峻（中京大学）

話題提供（登壇順）
　大倉得史（九州国際大学）
　遠藤利彦（東京大学）
　森岡正芳（神戸大学）

趣旨説明・司会
　松本光太郎（名古屋大学）

企画趣旨：
　これまで学術の場において「鯨岡理論」（「関係発達論」、および実践方法である「関与し

ながらの観察」および「エピソード記述法」）が表立って議論されたことはほとんどありませんでした。理論と方法を貫くパースペクティブが一貫している鯨岡理論そのものから、また理論の構想および方法の整備に長い時間を費やしてこられた軌跡からも学ぶべきことは多いように思います。著書『ひとがひとをわかるということ』（ミネルヴァ書房）が公刊され、鯨岡理論の全貌がおおよそ明らかになってきた今、議論するいい頃合になってきたのではないでしょうか。本研究会は、鯨岡先生をはじめ、４名の先生を招き、「鯨岡理論の現在」について語り合ってみたいと思います。

主催：てんむすフィールド研究会
http://www.k2.dion.ne.jp/~kokoro/tenmus/